

「アウトリーチ（訪問支援）研修」に係る研修計画書

【1. 機関・団体概要】

機関・団体名	特定非営利活動法人 青少年自立援助センター
機関・団体代表者 (役職・氏名)	理事長 工藤定次
所在地	〒197-0011 東京都福生市福生2351-1
電話番号	042-553-2575
FAX番号	042-551-6759
メールアドレス 本研修担当者	<a href="mailto:ysc@interlink.or.jp">ysc@interlink.or.jp</a> 担当者名：河野久忠
HPアドレス	<a href="http://www.npo-ysc.jp/">http:// www.npo-ysc. jp/</a>
研修実施場所（所在地と異なる場合のみ記載）	〒
設立目的（概要で可）	日本の将来を担う青少年の健全育成を考える時、全ての青少年にその機会が提供されるべきである。不登校、ひきこもり状況に陥った青少年が、社会参加できないことは、当事者、保護者にとって育成の機会を失ったことに他ならない。当センターは、当該青少年が自ら尊厳を持ち、積極的に社会参加できるよう寮生活を通して、心の傷の回復や、人間同士の信頼関係、基本的生活習慣の立て直し、将来に対する目標を持つことができるようサポートする。
職員数	全職員数 80名（常勤37名 / 非常勤43名）
機関・団体におけるアウトリーチの特徴や特色を記載	当法人では開設以来アウトリーチ事業を基軸とした青少年自立支援活動を全国的に展開してきた。近年、景気の低迷等の影響もあるのか、地域に関係なくニート層が多く目につくようになってきた。しかしながら、実際にアウトリーチをできる機関は少なく、そのスキルも一定ではないのが現状である。そのような、状況に対して一定スキルを持った人材の育成が急務と考えられる。当法人では、年間300件超の訪問支援を実施していて、その臨床例も多く蓄積されている。20、21、22年度においては、東京都委託事業のひきこもり支援「コンパス」で支援員向けの講座をおこなった。23年度からは「東京都若者者間参加応援事業」でも民間団体・公的機関職員向けの講座を実施している。より実践に近い形で、座学よりはロールプレイの時間を多くとり、また訪問支援の同行も行った。それにより、各々の現場において有効なアウトリーチの実践をおこなえるようになったとのこと

	報告をいただいている。そのような部分のノウハウも研修事業の中で生かして行き、研修後直ぐに役立つ内容としたい。そのような人材が多く輩出されれば、各地域において、早期対応ができるようになり、ひきこもり状況が厳しくなる前に対処できると共に、予防的な側面も期待できる。本事業において多くの人材が広域に展開されればと考えている。
機関・団体で運営している相談・支援機関名 例（●●サポートステーション） （●●ひきこもり地域支援センター）	あだち若者サポートステーション
	いたばし若者サポートステーション
	多摩若者サポートステーション
	黒潮若者サポートステーション
	フリースペースわかば（セーフティーネット足立）

## 【2. 平成26年度中のアウトリーチの実績概要】（訪問件数、対象、支援方法等を簡条書きで記載）

①訪問件数 250回以上。 ②対象 全国の概ね10代～30代のひきこもり・ニートの方。 ③支援方策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理士、精神保健福祉士等の専門職の参加。</li> <li>・インテーク面接における専門的な聞き取り、アセスメント。</li> <li>・対象者に対して信頼関係の構築、情報提供、誘導を慎重に行っている。</li> <li>・家族に対する心理面のサポート、家族関係の調整。</li> <li>・定期的なケース会議を実施。</li> </ul>
---

## 【3. 過去3年間における国又は地方公共団体の委託事業や自主事業等】

（委託事業・自主事業名等やその概要について簡条書きで記載）

<ul style="list-style-type: none"> <li>○あだち若者サポートステーション（厚生労働省）</li> <li>○いたばし若者サポートステーション（厚生労働省）</li> <li>○多摩若者サポートステーション（厚生労働省）</li> <li>○黒潮若者サポートステーション（厚生労働省）</li>   <li>○足立区若年者就労支援事業（足立区）</li> <li>○中途退学未然防止及び中途退学者等への支援事業（東京都）</li> <li>○青梅市における若者の自立等支援体制整備事業（青梅市）</li> </ul>
--

#### 【4. 過去2年間における子ども・若者の支援に係る研修実績】

(他機関・団体職員の研修受入を行った実施概要<研修概要、他機関・団体名、期間、人数>を箇条書きで記載)

東京都若者社会参加応援事業26年4月～27年3月

『訪問支援員実践講座』

⇒一般の支援団体向けのアウトリーチ講習

『東京都若者社会参加応援事業研究団体（訪問支援）向け講習』

⇒座学・ロールプレイ・訪問同行・事例検討会

『公的機関向け訪問支援員実践講座』

⇒保健士・福祉事務所ケースワーカー・スクールカウンセラー等が参加

##### ①回数

年間に第1期、第2期と2回開催している。

1期につき、3日間の講座。

##### ②対象

東京都内の支援団体の職員で現在訪問支援を行っているか、今後行う予定の方。

##### ③研修内容

- ・臨床心理士、精神保健福祉士等の専門職による座学。
- ・インテーク面接、訪問場面のロールプレイ
- ・当センターのフリースペースでの現場実習

#### 【5. 「アウトリーチ（訪問支援）研修」に係る担当者、受入条件、研修内容等】

	「アウトリーチ研修」実施上の役割（職名）	氏名	・関連保有資格 ・アウトリーチの経験年数
1	統括責任者	河野久忠	教員免許 訪問支援歴21年
2	主任訪問支援員	三橋風太	訪問支援歴7年

受入条件	
受入可能な日程 (平成27年9月28日 ～ 平成27年1月16日の間)	10月19日(月)～10月23日(金) (5日間)
受入可能な人数 (原則年間4名を)	2名

上限とする)	
保有資格の要否、 その他の受入条件	特に無し
研修期間中にアウトリーチを行う予定回数	1名につき一回以上

	研 修 内 容
	※下記の「初日」～「最終日」までの内容は過去に実施した実地研修を参考とした予定となり、同行訪問やプログラム等の参加・開催に併せて随時変更となります。
研修全体の概要	ニート・ひきこもり状況のトータルしたサポートを体験してもらう。入口のインテーク面接の重要性からアウトリーチの実際を座学・ロールプレイで体験してもらう。また、生活困窮者等の支援も視野に入れ、当法人で実施している生活保護家庭の支援・アウトリーチも体験してもらう。最終的には、出口の部分を理解する必要があるので、就労支援等の事業にも参加してもらい、支援の全体像を理解してもらえらるよう講習を実施していく。
初日	開講式 オリエンテーション (ガイダンス) 団体概要・事業説明・今後の日程・注意事項説明 施設案内 職員紹介 施設見学
2日目	・アウトリーチ研修 座学 (半日) ひきこもりの基本的原理 基本事項の確認 ⇒ インテーク編 アウトリーチ編
3日目	・現場実習 職員会議等の参加 就労支援現場での利用者対応 フリースペース対応
4日目	あだち若者サポートステーション実習 訪問支援同行 (生活保護家庭への支援・同行)

最終日	<ul style="list-style-type: none"><li>・現場実習</li><li>・講習のまとめ</li></ul>
研修内容の配分	講義 2、演習 3、利用者対応 4、その他 1
研修生の宿泊について	研修中は当団体の寮の 1 室に宿泊することができる
備考欄	利用者と一緒に作業やスポーツをするので動きやすい服装を持参する